

会議の名称	令和5年度第5回茅野市総合計画審議会		
開催日時	令和5年12月18日(月) 18時30分~20時00分		
開催場所	茅野市役所 議会棟大会議室		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	<p>○議事</p> <p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 市長挨拶</p> <p>4 協議事項</p> <p>(1) 第6次茅野市総合計画基本構想(案)について 資料1</p> <p>(2) 地域幸福度(Well-Being)指標について 資料2</p> <p>(3) 答申(案)について 資料3</p> <p>(4) その他</p> <p>5 その他</p> <p>6 閉会</p> <p>○議事録</p> <p>1 開会</p>		
会長	<p>2 会長挨拶</p> <p>皆さんこんばんは。師走のご多用のところ、お集まりいただきありがとうございます。ございます。</p> <p>今回の審議会は、我々委員の任期における最後の審議会となる。</p> <p>大きく時代が変化し、第6次総合計画を策定することとなってから、過去の総合計画審議会の議論に比べ、より多くの時間をかけ、また、多くの皆様のご意見を伺ってきた。</p> <p>特に今までと大きく異なるのは、ウェルビーイング、幸福について考えた点。本日の審議会では、幸福の指標について検討いただくので、よろしくお願ひしたい。</p>		
市長	<p>3 市長挨拶</p> <p>皆さんこんばんは。大変お忙しい中、皆様お集まりいただき、誠にありがとうございます。ございます。</p> <p>この総合計画審議会だが、令和4年2月に始動し、当初、第5次総合計画のあり方についてご議論をいただいた。その過程において時代も大きく変わり、第6次の総合計画にするのが良いのではないかという流れの中で議論を進めてきていただいた。2年間で計11回の会議を開き、大変熱心にご議論をいただいたことに感謝申し上げたい。明日答申を出していただけるということで、大変ありがたく思っている。</p> <p>ご承知の通り、全国の地方自治体が人口減少あるいは少子化高齢化という大きな課題に立ち向かっていかなければならない。そうした時代を迎え</p>		

事務局

会長

る中で、我々は一体何を指してまちづくりをしていけば良いのかということ議論をいただいた。そして、「幸せ」を一つのキーワードとし、人によっていろんな感じ方がある「幸せ」について、幸せをみんなが実現できる、そうしたまちにしていこうという、大きな方向性を見出していただいたと理解している。今後答申いただいたものをベースに総合計画を策定し、市民の皆様方にも周知し、ご理解をいただき、共にそうしたまちづくりを進めていく、そんな形にしていかなければいけないと思っている。

計画ができて、それを実行していくことは、これまで以上に困難を極めると思っている。幸せを実現するためには行財政改革もやっていかなければいけない。今までのまちづくりのやり方そのものも、もう1回考え直していかなければいけない。様々な大きなテーマがある。そうしたことを市民の皆様方のご理解を得ながら進めていくことは、そう簡単なことではないと思っている。2年の任期ということでひと区切りという形になるが、今後とも委員の皆様方には、ご指導、ご協力をいただければありがたいと思っている。何卒よろしくお願ひ申し上げたい。

いずれにしても、2年間、皆様方に熱心にご議論いただいたことに深く深く感謝申し上げ、私からのご挨拶に代えさせていただく。

4 協議事項

- (1) 第6次茅野市総合計画基本構想（案）について 資料1
＝事務局が説明＝

今事務局から説明があったが、2年間かけていろいろご意見いただいたことを思い出しながら聞いていたところ。5次総から6次総への切り替えということで、本当に基本的なところの切り替えを後押ししてくれたのがコロナ禍だったのかなと思っている。コロナ禍で逆に今まで見えなかったものが見えてきたのではないかなと個人的にも思っている。この3年間で何が人間にとって大事なのかということがあぶり出されたのではないかなとも思う。

9ページのまちづくりのイメージを見ていただきたいが、半円の地球儀みたいな図の中になんか集約されているのかなと思っている。今まで5次総の中で、たくましく、やさしいという概念は入っていたが、6次総になってからしなやかということが出てきた。しなやかということは多様性の容認みたいなこともあるし、柔軟であるということがしなやかなのではないかと自分なりに理解しているところ。

また、15ページから17ページまで交流拠点の考え方が出てくるところだが、交流は何をイメージ、意味しているのかというのは非常に大事なことだと思っていて、この言葉だけを聞くと外部との交流を安易にイメージしてしまうが、コロナ禍で市民の生活にいろんな影響があった中で、地域における交流というのも大事であると再認識したところがある。特に3つ目、17ページの”知”と茅野という掛詞のような表現が出てきて、皆様のご意見を聞くと好評だったが、やはり新しいものがこの中に入ってくるという流れが大事だということを改めて思っている。

2年間皆さんからご意見いただいたことが基本構想になり、そこから基本計画に流れて、実現に向かっていくことになる。明日市長に答申をする予定だが、今の説明の中でご意見なり、感想などいただきたい。

委員	<p>すごく素敵なものができあがったと思っている、 お配りいただいた資料の中の赤字が今日初めて提示された文面ということ でよろしいか。15ページに人や企業が集まる目的をつくるとあるが、人 や企業が集まる交流の仕組みをつくるという意味かとも思うが、どのよう なイメージなのか。</p>
会長	<p>事務局、いかがか。</p>
事務局	<p>例えば茅野市がDXの取組を先進的に進めていて、一昨年国家戦略特区 の指定を受けたという一つの成果があるが、それにより、茅野市は、新しい ことにフレキシブルに対応できる、新しいものを受け入れることができる まちであることが対外的に発信される。それにより、ここで最先端の技術を 使った新たなビジネスや産業が生まれる可能性を感じ、起業・創業・就業な どの目的を持って人や企業に集まっていただけという考え方である。</p>
委員	<p>了解した。</p>
会長	<p>全員から順番にお話を聞きたい。</p>
委員	<p>全体を通して非常に良くまとまっていると思う。今回交流という部分を 3つにまとめていただいたが、この言葉がキーポイントになっていて、前 回、”知”の交流拠点が良いと思ったが、それだけではなく他にもこういう ものもあるというものを考えて出していただいたことにより、プラスアル ファの部分で際立つので非常に良いと思う。</p>
委員	<p>これからの時代は気候変動という要素が大きい。縄文時代も気候変動が あったが、この地域にはたくさんの人が住んで持続的な暮らしを送って いた。コロナ禍などいろいろなことが起こる中、茅野市の立地条件などを考 えた場合、気候変動などいろいろな問題が起こっているが、そういった中 においても、茅野市は今後の展望が開けるような地域であると思う。現に人口 の移動も始まっているし、大型の企業もこの地に着目して、移転を考えて いる動きも出始めている状況である。こうした恵まれた状況を前提とした形 で今回の基本構想が出てきていると思う。中身を見てもだいぶブラッシュ アップされて良いものになっていると思う。</p>
委員	<p>5次総から6次総に変化し、時代も大きく変わってきている。そうした中 で、それを捉えた大変素晴らしい基本構想が出来上がったと思う。いろん な知識を持った皆さんが集まり、いろんな意見を出していただく中で、最 後に市の職員の皆さんが大変ご苦勞をいただいたということに感謝し、御 礼を言いながら、私の感想とさせていただきます。</p>
委員	<p>先ほど会長が、コロナによって新しいものがはっきりとわかってきたと おっしゃったが、全く同感である。コロナで基本的に冠婚葬祭など生活 の中に普通にあったものがみんな変わってきた。本質として何が大事か という部分が、みんなそれぞれ変わってきたと思う。変わってきた中で、 その変わったものが正しいかどうかというのはわからないわけで、そうい うことに対する考え方をまた考えていかななくてはならないと思っている。</p>

<p>委員</p>	<p>総合計画については、会長が今までの経験を生かされて、立派なものが出来たと思うし、この素晴らしいものをこれからどうやって生かしていくかというのが大切であると思った。</p> <p>9ページの逆円錐の一番下に、「縄文文化からの学び」と書いてある。縄文文化から何を学んでどうするかということについて、縄文プロジェクトから来た人間としてはすごく重い負託を受けたのかなと思って、ちょっと負けそうぐらいな印象である。しかし、前市長が立ち上げた縄文プロジェクトというのは、現代の問題を縄文人の知恵を使いながら解決していこうというのが一つのテーマだったので、これはこれで生きていて、さらにそれを進展させるのにちょうど良いと思っている。</p> <p>それから最近耳にするEBPMだが、そのエビデンスをどうやって縄文の文化から得るかというのが本当に難しいと思う。世界遺産の三内丸山遺跡のお膝元の青森県や青森市の基本構想を見ても縄文ということは出てこない。それを中央高地の我々が出して、そこから解決の糸口となるような学びを見つけていくという作業がこれから大事になっていくかなと思っている。したがって、これからこの部分を担っていく縄文プロジェクトの人たちは大変だなと感じている。</p>
<p>委員</p>	<p>全体的に良くまとめていただいて、かつ、非常に良く構造化されている文章、まとまりだと感じている。実際にこれがまた計画に移されていくという段階では、今日たまたまDXの会議の部会があり、その時にメンバーの方から、何かをやっていくには主語をはっきりさせること大事であり、主語がわからなくて話がずれることがあるというような趣旨の話があった。ともすると構想の中で耳心地の良いことだと、主語がはっきりしない場合もある。計画に落とししていく時には、おそらく主語が出てきて、それが実際の施策につながる時に、今度は構想に立ち戻り、これはこういう意味を内包していたのかなということがわかって、今後の計画の見直しの時に生きてくると思う、その循環を生かしていければ、非常に良く構造化されている基本構想なので、計画もその構造が見えるような格好で進められると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>15ページから17ページで、若者を中心としたより多くの人が魅力を感じる産業を生み出す企業などを市内へ呼び込み、とある。若者が選ぶ産業というと、代表的なのはIT産業などと言われている。そういったものをどうやって取り込んでいくかが非常に重要なことだと思う。また、リモートワークなど生産性向上に寄与するということも、現在、企業は人手不足が深刻化しており、人手不足で倒産というケースもだいぶ出てきている。これは全国的な動きだが、この計画を作った上で、どうやってこの部分を具現化していくかが非常に大事なことだと思う。今後市民全員でこの部分を考え、取り組んでいければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>初めてということもあり、最初の頃は配られた資料がよく理解できないところもあったが、回を重ねる事でだいぶわかるようになり、また、皆さんの発言の内容も理解できるようになってきた。多岐に渡って、いろんな項目をちゃんとまとめることができおり、大学としてもできることがたくさんあると感じている。</p>

委員	<p>皆さんの意見がなかなか難しく、文章などを読むのに大変苦労したが、全体として、格調の高いものができているなど思っている。これを一生懸命自分のものにするように、自分だけではなく、市民みんながそういった姿勢で取り組んでいければと思っている。</p>
委員	<p>私が所属する青年会議所は、地域の課題を解決するために活動しているが、今年、課題を解決するにあたって縄文に辿り着き、塩尻の遺跡で事業を行った。この基本構想の根幹にも縄文がある。これから計画に移っていくところだが、非常に素晴らしいものになりそうだと思っている。</p>
委員	<p>15ページから17ページまでに、”知”の交流拠点の創出などが赤字で新しく追加されている。会議が終わりになってきて、なるほど思ってきたことがある。それは、私はもうすでに後期高齢者だが、今日もこうやってリモートで会議に参加させていただくことができる。これはある意味、年齢や世代を超えて、また、場所を超えてこうやって議論ができる、これも交流の一つであるということ。最初は交流の意味がよくわからなかったが、現代の交流は、昔の定義の交流から非常に広い意味の交流に変わってきている。資料の中にもあるが、ICT、情報化を含めて交流というのが大きな力をもってくるのではないかと改めて感じている。そういう意味では、いろんな世代の方々とこういう場を借りて議論できたことに感謝したい。</p>
委員	<p>今日も最初に話があったが、今回の6次総は今までで一番回数多く議論され、よく練られた構想だと伺ってうれしくなり、それに関われたことにありがたいという気持ちがある。また、会議の中で、生活の主流になりつつある若者は伝えるツテが少ないが、委員のように伝えるツテを持っている人は生活の主流になり得る、との趣旨の意見があったと思う。その時はその通りだなと思ったが、その矛盾を解決するために基本構想の中にもあるようなDXを活用した工夫を今後見つけていくのだろうと期待している。</p>
会長	<p>力強いご意見、感想をいただき感謝。明日は自信を持って市長に答申していきたい。</p>
事務局	<p>(2) 地域幸福度 (Well-Being) 指標について 資料2 ＝事務局が説明＝</p>
会長	<p>基本構想の成果指標として、57.2%という数値を5年後もう少し増えて60%になっていれば良いという感覚だと思う。ウェルビーイング指標については、大変興味深い調べ方であると思う。ご意見等あればお出しいただきたい。</p>
委員	<p>3ページのロジックツリーのところだが、心の因子と言い出すときりがないと感じた。日々の生活で笑うことが多いということ为例にしているが、ウェルビーイング、幸福感を心の因子の一つとして捉えるとなると、これはもう宗教と同じじゃないかと思う。これはどのように考えたら良いか。</p>
事務局	<p>なかなか難しいと感じているところではある。例えば、市役所の部署の仕事にはそれぞれサービスの受け手がいて、そうした方々が、どうすれば笑顔</p>

委員	<p>になっていただけるのか、ということそれぞれの部署で想像することが出発点になると思う。心の因子という少し大げさになってしまうが、その出発点から、そのために行政として何ができるか、ということ各部署で考えて施策、事業を組み立て、実施していくという流れになると思う。</p> <p>例えば小学校、中学年で今不登校の子どもたちが全国で増えている。彼らは何で学校行かないかっていうことを心の因子から捉えて、彼らは不幸じゃないかと考えると、この例の30、40代の幅をもっと広げて、もうちょっと自分の気持ちを表現できるぐらいの子どもから高齢者といわれるところまでの人々を想定した方がよい。</p>
委員	<p>幸福度を考える場合、アメリカ的、欧米的なものが基本形となりこういったものが出てきているが、我々の世界というのはやはり東洋である。東洋といたら自然を大事にしたり、仏教的な考え方のようなものが基本にあるということ。心の因子のところは、大変難しいとは思いますが、東洋の我々独自の形の枠組みみたいなものを入れ込んでこれを考え、茅野市独自の形の分析なども入れ込んでいたら良いと感じた。</p>
委員	<p>ウェルビーイング、幸福度をどうやって数値化するのかというのは非常に難しく、確かに「幸せですか」という問いに対する答えが指標と言えるかもしれないが、子育てという視点で幸せを考えると、自己肯定感ということと言われるケースが多い。自分の存在というものを自分自身が認められるか、誰かの役に立っていることを感じられるか、といったことである。そういった意味で見ると、おそらくここで言えば自己効力感と言う部分が一番合うと思っていて、この部分を見ると茅野市は非常に低いと感じた。それに対して、この部分の客観指標は非常に高いが、どうやって測るのか見てみると選挙の投票率みたいなものであり、ものすごく重要な部分なのに、それで測って良いのかなと疑問を感じた。</p>
会長	<p>国の指標でもあり、1年ごとに数値を見るのでは大きな傾向が掴めないため、5年後を見据えて目標を設定したいということで、よろしいか。</p> <p>意見等なし</p> <p>(3) 答申(案)について 資料3 =事務局が説明=</p> <p>答申案ということで明日の午後、市長へ答申書を手渡す予定である。その際は、実行のための計画であるので計画倒れにならないようにということをお話したいと思っている。</p> <p>前回目だけ通していただいたが、これでよろしいか。</p> <p>意見等なし</p>
会長	<p>(4) その他 今後の予定等について事務局から説明する。</p>

事務局	<p>明日基本構想案を市長に答申いただき、この趣旨に基づいて具体的な取組を定める基本計画の策定に入る。それを進めながら基本構想案のパブリックコメントを実施し、早ければ年度内にその基本構想を形にできればと考えている。基本計画については、これからという部分でもあるので、遅くとも来年度の6月ぐらいまでには策定ができればと思っている。</p>
会長	<p>全体を通じて何かご意見、ご質問等があればお願いしたい</p> <p>意見等なし</p>
会長	<p>進行を事務局に戻す。</p>
事務局	<p>5 その他 副市長から挨拶を申し上げる。</p>
副市長	<p>委員の皆さん本当にこの2年間、総合計画基本構想案の策定にあたり真摯なご議論いただきまして大変ありがとうございました。改めてお礼を申し上げます。</p> <p>この基本構想はコロナ禍で策定されてきたものである。コロナ禍では本当に様々な課題というものがあらわになった。例えば、開かれていると思っていた地縁のコミュニティやテーマ型のコミュニティが、未知のもの、あるいは外部の者に対して非常に閉鎖的であったり、不寛容であった。あるいは社会とか経済の仕組みなど、今までの仕組みというものが制度疲労を起こしたり、これまでの物の考え方や枠組みが大きく揺らいだ、そういった3年間だったと思う。そうした中で皆さんに議論いただいた基本構想においては、都市の将来像、このまちの新たな姿だけではなく、一番普遍的なもの、ここにある価値みたいなものが議論されたのではないかとと思っている。</p> <p>縄文以来この地で新しいもの古いものが交流して、新たな文化とか歴史を形づくってきた。この風土の中で我々の祖先が何千年も暮らしてきたわけだが、今回の議論の中では、ここに住んでいる人に焦点を当てて、そしてその人の幸せの実現のためにというようなことが議論されて、本当にありがたかったと思う。やはりこのまちのキーワードは交流し、寛容であるということだろうと思うし、しなやかな知性がこの地域には問われているのだろうと思う。これを今後、基本計画の中に落としていく、具現化していくということは相当困難な作業になるが、ぜひまた委員の皆様のお力をいただく中で作っていききたいと思うので、ご協力お願いしたい。</p> <p>改めて2年間、本当にありがとうございました。</p>
事務局	<p>副会長から閉会のあいさつをお願いしたい。</p>
副会長	<p>6 閉会 あつという間の2年間だった。コロナ禍などにより、想像だにしない世界を目の当たりにしながらも、本日最後の審議会を迎えることができた。今回ウェルビーイング、縄文などについて、様々な方向から皆様の意見等を聞くことができた。個人的には、今回の構想の中に温かみを持った「幸せ」という言葉が入ってきて、とても新鮮だなと思ったところ。ここまででき上がった構想がこれから動き出す。生き生きとした総合計画になることを祈って、</p>

今日の審議会を終わりにしたいと思う。
皆様本当にありがとうございました。

以上